

会 議 録

会議の名称	補助金等見直し検討部会（第27回）
開催日時	平成24年11月9日（金） （午前・午後）10時00分 開会 （午前・午後）11時00分 閉会
開催場所	市民総合センター2階研修室
出席者	<p>【外部委員】 坪内隆、中森孝文、杉田宗三、棟田勝子</p> <p>【検討部会員】 河井企画財政部長、秋元財政課長、小田地域教育振興課長、山寄政策法務課長、大神人権・男女共生課長、上田政策企画課長、北達市民活動推進課長、田川高齢介護課長、岡こども政策課長、徳永商工労政課長、大神農林課長、松本環境政策課長、田邊都市政策課長、鎌谷道路交通課長、乾教育政策課長、前田学校教育推進課長、池田市民学習課長、増田青少年課長、中井スポーツ振興課長</p> <p>【作業部会員】 青木市民活動推進課長代理、岡田政策企画課主幹、岩崎財政課係長、中尾政策法務課長代理、多田人権・男女共生課長代理、成田障害福祉課長代理、村上高齢介護課係長、平野こども政策課長代理、河原商工労政課係長、内田農林課係長、井澤環境政策課主査、馬場都市政策課参事、福田まちづくり支援課長代理、砂金道路交通課係長、阿曾教育政策課主査、上田学校教育推進課主幹、小河地域教育振興課主査、加藤市民学習課係長、小島青少年課長代理、松澤スポーツ振興課係長、中井消防本部総務課参事、野村議会事務局総務課長代理、北川財政課職員</p>
欠席者	原田福祉政策課長、北川障害福祉課長、西村まちづくり支援課長、萩原消防総務課長、岸本福祉政策課係長
開催形態	公開（傍聴者2人）
議題(案件)	(1) 既存補助金等の検証結果（案）について
配布資料	(1) 既存補助金等の検証結果（案）について (2) 使用料・補助金等見直し検討部会 既存補助金等検証結果（案）

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
議長	<p>本日は、これまでに行ってきた各補助金等の検証内容を取りまとめたので、その内容について審議をする。</p>
検討部会員	<p>【議題1 既存補助金等の検証結果(案)について】 <資料に沿って説明></p>
議長	<p>96件の補助金等の検証結果及び検討部会で指摘があった内容について取りまとめたものを簡単に説明させていただいた。この内容等について、ご意見等をお願いする。</p>
外部委員	<p>委員の指摘があつて、それに対する市の対応を記載しているが、概ね検討部会での指摘事項を踏まえたうえで検討しているものと考えているが、例えばF-01の森林整備事業補助金などは、いつまで補助を続けるのか明確にしてほしいという指摘事項に対して、業として成り立つようになれば打ち切るとされているが、森林事業が業として成り立つことはなかなか考えにくいことであり、そうするとかなり長い間、補助金を続けなければならない。例えば、森林整備は、保護政策の一環として補助金ではなく森林行政として位置付けて市が実施し、補助金は民間からアイデアを競い合うようなもの、例えば、森林事業の活性化などの事業に出していく制度に移行したほうが良いと思う。</p>
外部委員	<p>F-03の松沢池の市章への補助金であるが、万博のころに設置されたとのことだが、万博のころはエキスポロードから見えたであろうが、現状は、周辺の方しか見えないのではないか。エキスポロード沿いはマンション等が建っているため見えず、名神高速道路からも防音壁で見ることができない。PRするとのことであるが、周辺の方しか見えない中でどのようにPRするのか疑問に思う。</p> <p>また、L-02の職員の通信教育への補助金であるが、L-01を直接執行するのに、これだけが補助金として残ることに違和感を感じる。L-01と同様にできないのか。</p>
検討部会員	<p>森林整備の補助金については、森林保護というものを根本から検討していかないといけないと考えているので、少しお時間をいただきたいと思う。</p> <p>また、松沢池の市章については、松沢池全体が水辺空間としてきれいに整備されているので、ホームページなどを通じて、周辺住民だけでなく多くの市民に来ていただけるような形でPRしていきたいと考えている。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
作業部会員	<p>L-02 の通信教育の補助金については、検討部会での指摘を踏まえて、L-01 と同様に市が直接受講料を支払うことを検討した。しかし、この制度は講座を修了することを条件としているが、受講料は基本的に前払いであることから、修了していない職員に対しても支出してしまうことになることから、財務事務のテクニック上、補助金という制度でいかざるを得ないと考え、現行どおり継続とした。</p> <p>なお、職員としての必須の能力開発・向上については、正規の研修として体系的に実施している。このL-01 とL-02 の制度は、あくまでサブの制度であり、必須の能力の上積みとして、自主的に能力向上を目指す職員を支援する制度であることをご理解いただきたいと思う。</p>
議長	<p>通信教育の補助金については、委員から根本的に補助金での執行はおかしいとのご指摘を受けており、そのまま補助金として残すのはどうかと考えていたが、財務上の手法としてやむを得ない部分があり今回の資料では現行どおり継続としているが、委員のご指摘を踏まえ、補助金ではなく別の手法で整理する方向で再検討させていただく。</p>
外部委員	<p>市の職員のスキルアップ・レベルアップについては、一般の企業の状況も考えて、支給することに問題はなく思っており、制度自体を反対しているわけではなく、むしろレベルの高い職員に市の行政運営を担ってほしいと思っている。ただ、今回、補助金制度を見直している中で、市役所職員に対しての補助金を残すということは、市民感情としてどうかと思う。他市にはこういう補助金がない状況にあって、なぜ茨木市だけが市民の税金を使って職員の通信教育の費用を補助しなければいけないのかという、市民の目線に立って再度検討していただきたい。</p>
外部委員	<p>今回の補助金の整理では、廃止して新たな制度を設けるなど、補助金の出し方の適正化に力を入れているが、外部委員からの主な指摘に記載されているように、継続的に市民を育成していくシステム作りにも、今後、力を注いでいていただきたいと思う。</p>
外部委員	<p>本日の資料では額は示されていないが、10 万円以下の非常に小さな補助金がある。補助金の支出では、資料を作成して稟議を回して支出するという手続きがあり、補助額が大きくても小さくても同様の事務作業があると思う。小さな額の補助金については、大きな補助金に統合するなど、事務作業を軽減するような、効率的に実施できるような仕組みを考えることが重要であると思う。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
検討部会員	<p>また、運営費の補助において、人件費への補助を行うべきではないときつい言い切りの文言になっているが、原則としてはそういう考え方で良いと思うが、事業によっては、臨時職員の雇用が必要な場合もあると思うので、その基準・考え方を定めておく必要がある。</p> <p>最後に、私が委員に就任したときに最初に申し上げたように、補助金というものは、アイデアを競い合って、茨木市をより良くするような知恵を出し合うようにすることが必要であると思う。例えば各学校への交付金では、各学校に等しく補助を行うのではなく、アイデアを各学校で競う形にして、良い事業に対しては重点的に配分していくというようなことも必要ではないかと思う。補助金のそもそもの趣旨である事業費補助ということを良く考えた上で、提案力を競うことができるような環境を作っていただきたい。一方で、保護しなければならないものについては、保護のための制度を構築して保護するなど、補助金の趣旨を踏まえた運用を心がけていただきたい。</p> <p>人件費補助については、事業に直接必要な人件費を支援することは市民感覚でも受け入れられると思うが、総務的な経費の人件費、例えば団体の役員の人件費へも補助金という形で税金が使われていることは、今回の検討部会での意見でも、受け入れがたいという方向性であったので、そういったことを踏まえて、今後、検討していきたい。</p> <p>また、提案力を競うことができるような補助金制度の創設については、今年度から提案公募型補助金制度を創設したところであり、今後、この制度を充実させて、より良い補助金制度を構築していきたいと考えている。</p>
外部委員	<p>例えば、商店街への補助金で駐車場の借上げに補助をしているものがあつたが、単に駐車場に補助をすることによって商店街が発展するとは思えない。商工業者であれば、アイデアや提案力を競い合うことは特に重要であるので、補助金を受ける方々の意識も改革する方向で促していただきたいと思う。</p>
外部委員	<p>見直し検討部会の外部委員としていろいろと意見を申し上げたが、一番大事なことは、補助金自体の有効性・公平性について、市民目線で市民がわかりやすい形で公開することが、非常に重要なことだと思う。補助金の検証については、従来からもやっけてこられたと思うが、時代も変わっており、市民の意識も支払った税金がどのように使われているのかという目線を持っておられるので、市民目線を忘れずに行政運営をお願いしたい。</p> <p>また、今回の検討部会で、かなりの件数の補助金の検証を行ったが、それ</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
外部委員	<p>らを全てチェックするには時間があまり無かったと思う。しかし、この検証をきっかけに、今後、時間をかけて補助金の適正化に努めていただきたいと思います。そして、今回の検証において、事業費補助の考え方、ボランティアへの運営費補助、人件費の問題などについて、検討部会で多くの意見があったが、そういった意見を踏まえて、今後の行政に活かせていただきたいと思います。</p> <p>この2年間、これをまとめるには、市全体で各部署が相当の努力をされたと思う。そして、この検討部会での議論そのものよりも、各課の中で見直しをされたときに、いろいろな新しい観点が出てきたと思う。そういったことを踏まえて、継続して進めていただきたいと思います。</p>
外部委員	<p>今後とも、皆さんも中立的な立場に立って、いろいろと検討していただきたいと思います。</p>
議長	<p>ここからは、庁内の検討部会員への話であるが、補助金の見直しはこれで終わりではなく、ここからがスタートである。今後、今回の資料等について、市としての意思決定を経た後に市民へ公表していくことになり、それを基に、平成25・26年度予算に向けて、各補助金の所管課において各団体に説明することとなるが、これが非常に大変な業務となるので、しっかりとお願いしたいと思う。</p> <p>各団体への説明において、基本となる考え方はガイドラインになるが、総論では賛成でも各論で個々の補助金の話になると、自分の補助金が減ることになれば、協力できないといった話がいろいろと出てくることも想定している。そういったときには、ガイドラインの考え方やこれまで検討部会で検討してきた経過、外部委員からの指摘・意見を我々自身が共通認識することが重要であり、理解が得られるよう、今後とも十分に連携して取り組んでいきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>総括的な補助金の話であるが、これまで20年30年続いてきた補助金もあるが、今回、大きな見直しを行おうとしているのは、時代の変遷により補助金の意義・目的が変化しているということがある。補助金の意義・目的としては、公益的な活動に対する支援、あるべき姿へ誘導するための政策的な支援、また、新たな視点としては市民との協働の手段といったものがあると思う。そういう新しく出てきた意義や目的へのシフトをしっかりと把握し、担当課として政策目的を持ってどのように進めていくのか、市民との協働をどのように進めていくのかということ十分に踏まえて、各団体と十分に話をしていただき、また、内部でも議論を深めていくことが重要であると考えている。こういったことを踏まえて、見直しをスタートしていただきたいと思います。</p>

議 事 の 経 過

発言者

議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項

この検討部会は、とりあえずこの時点で一区切りとなる。外部委員の皆様
の任期は今年度中を任期としており、何かあったらまたお願いすることもある
かもしれないが、一旦、ここで一区切りとする。

外部委員の皆様には、非常にお忙しい中、長期間にわたって多大なご協力を
いただき、非常に感謝している。この検討部会での結果を踏まえて、今後、
補助金の見直しを進めていく。

それでは、これで検討部会を終了する。

以上